

特定非営利活動法人

ミレニアム・プロミス・ジャパン様

「世界の笑顔のために」物品授与に関する感謝状

青年海外協力隊 平成22年度派遣

ガーナ 理数科教師

水元 麻紗子



1、はじめに

日本ではいよいよ桜の季節がやってくる頃だと思います。未曾有の被害をもたらした東北大震災から1年も過ぎましたが、その傷跡はまだ今でも深く残っていると聞いています。遠いガーナからではありますが、被害にあわれた地域の方々の一早い復興をお祈りしています。

この度は「世界の笑顔のために」を通しまして、私と配属先である St.チャールズ高校が要請致しました『数独』を贈って頂き、誠にありがとうございます。

無事に授与させて頂いたので、その感謝の意を表するとともに、ガーナの紹介及び私の活動の報告をさせていただきます。

2、ガーナについて



ガーナは西アフリカに位置し、面積は 238537 km²と日本の 2/3 程度で、人口は 2422 万人です。

東隣はトーゴ、西隣はコートジボアール、北隣はブルキナファソ、そしてギニア湾に囲まれています。

公用語は英語で学校やオフィスなど公共の場では英語が話されておりますが、各地方で様々な言語が話されており 40 以上もの言語があるといわれています。

私の住んでいる町はタマレというガーナで 4 番目に大きい都市で、ノーザン州の州都です。タマレは首都アクラから約 600 km 離れたところに位置しています。ダゴンバという民族が多数を占め、ダバニ語が話されています。

また、ガーナではクリスチャンが約 8 割を占めていますが、タマレではムスリムが一番多いです。ムスリムは 1 日に 5 回のお祈りをします。その度に町のいたるところでコーランが流れ、タマレの名物の 1 つとなっています。

季節は 1 月～3 月が乾期、4 月～9 月が雨期、10 月～12 月が砂埃の舞うハマターンと呼ばれる季節です。1～3 月の乾期には雨が数ヶ月もの間降りません。そのため、各地で水不足が起こり、気温は 45℃ を越える日も多々あります。

3、ガーナの生活



ガーナの主食は Yam 芋やとうもろこしです。また、タイなどから輸入された米も食べられています。

中でも代表的なガーナ料理は「フフ」です。Yam 芋（地方によってはプランテンを混ぜる）をお餅のように杵でついたものをトマトやグランナツのスープで食べます。食感は白玉くらいの柔らかさで味にくせもなく日本人でも抵抗なく食べられると思います。

また、同じく代表的なのが「バンクー」です。これはトウモロコシの粉を発酵させたものから出来ています。独特の酸っぱさがあるので、初めて口にした時はおいしいとは思いますが出来ませんでした。ガーナで生活していくうちに一番好きな食べ物になりました。スープにはオクラがたっぷり入っており、野菜が貴重なガーナなので私は野菜が恋しくなったしずるときに食べたりしています。





まだまだ電気が安定して供給されていないガーナでは、一般家庭での調理には炭を使う七輪が利用されています。また、キッチンが家の中にある家庭は珍しく、多くの家庭では外の中庭のような場所で調理します。

右の写真はガーナの北部にみられる特徴的な住居です。きのこのような形をしています。

風通しがよく中は涼しく、暑さが厳しいガーナ北部ではよく見受けられる住居です。しかし、藁や土地で出来ているため数年毎に作り直します。



ガーナをはじめ、アフリカでは人々は頭の上に物を載せて器用に運びます。かなり重いものまで運ぶ事ができるようで、自分の体重と同じくらいの物は運べるようです。また、小学校高学年くらいの子供も町で食べ物や飲料水を売ったりして働いています。中には学校から帰ってから働いている子や、学校も行けずに働いている子も多くいます。ガーナの学費はそれほど高くはないのですが、制服や教科書が高く買えなかったり、親が教育の重要性を感じていなかったりという理由で学校に通えない子供がいます。

ガーナには貧しい家庭が多く、経済や技術は日本に比べ発展は遅れています。しかし、ガーナの人々の性格は非常に人懐っこく、明るいのです。ガーナに来た最初の頃は『肌の白い外人』というだけで差別的な言葉を投げかけられたり、金や物を要求してくる人にとまどいを感じましたが、現地語でコミュニケーションをとったり名前を教えたりすると、本当に親切にしてくれます。挨拶を重んじており、知り合いに町でばったり出くわしただけでも立ち止まって拍手を交わし挨拶します。

また、子供たちは外で走り回って遊んだり、大人は近所の子供の面倒をみたりと、『古きよき日本』の面影を感じることもあります。

ガーナは確かに貧しく問題もたくさんありますが、人々は元気で明るくこちらがパワーをもらっているような気分にもなります。

4、St. チャールズ高校について

本校はタマレ北部ノーザン州の州都であるタマレにある高等学校です。全寮制の男子校で、ガーナの北部3州の中ではトップクラスの進学校といわれています。それ故、ガーナ全土から生徒が集まっており、ほとんどの生徒が寮で生活しています。



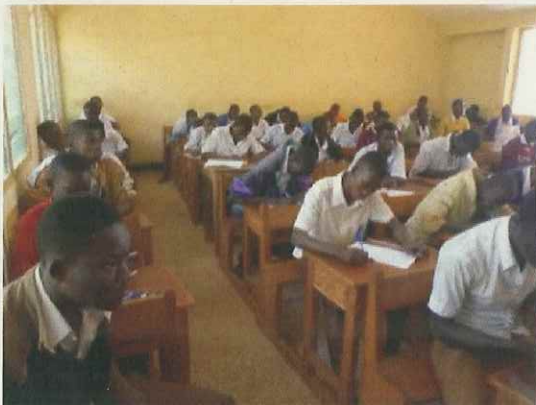
生徒数は約800名で、サイエンス、アグリカルチャー（農業）、ビジネス、アート（普通科）に分かれています。中でもサイエンスクラスの生徒の学力のレベルは高く、医師や薬剤師、またはエンジニアなどを目指す生徒が多くいます。

学校内の規律は比較的厳しくされています。ミッション系の学校で、校内には教会もあり毎朝お祈りをしています。その他にも朝、夕方にクリーニングタイムがあり校内はゴミもなくきれいに保たれています。

設備に関しては決して恵まれてはいませんが、ガーナの高校の校庭は日本の学校を比べるととても広いです。日本の学校と大きく違う事に一つは、そんな広い校内のいたる所にヤギ、羊、ニワトリなどの家畜がたくさんいる事です。授業中に教室に迷い込んできたりする事もあります。



学校の行事も充実しており、スポーツ大会や他校の生徒を招いてのダンスパーティーなどがあります。本校でもっとも盛大に行われるのはフィーストと呼ばれる祭典で生徒たちは左の写真のような伝統的なダンスを披露してくれます。



(授業の様子)



(クリスマスキャロル)

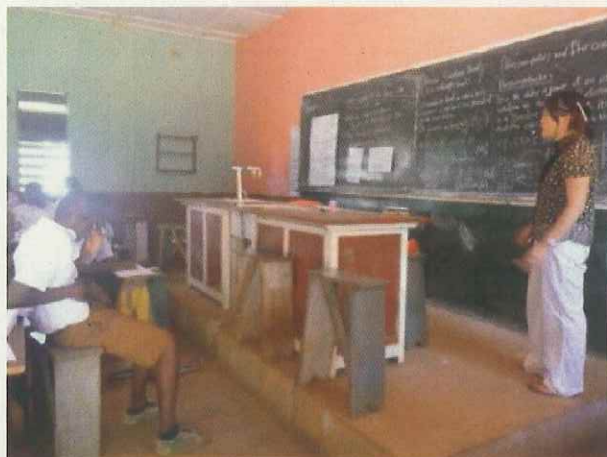
このように本校の生徒は勉学に励む一方で、スポーツ、ダンス、音楽なども楽しんでいます。

5、活動内容

現在、私は1年生のサイエンスクラスとアグリカルチャークラスの化学の授業を担当しています。ガーナの授業は1コマ40分で、大抵2コマ続きで80分の授業が一般的です。

ガーナの理数科教師の不足は深刻でクラスによっては「物理の先生がない」という理由で物理の授業が行われていないなど、まだまだ問題は山積みといえます。そんな中で化学を担当する私は貴重な人材の一人として重宝されていると思っています。

また、ガーナなどアフリカでは先生が教科書の内容を読み上げて、生徒が写すだけという授業が多いという事実もあります。その中でTLM (Teaching Learning Material) を使った授業を紹介したりしています。



(JICA ボランティアによる実験ショー)

6、物品の要請理由

ガーナをはじめアフリカの理数科教育では理論を重視されており、理科や数学までも「暗記科目」となっています。その“暗記”は進学するためのテストにおいて彼らにはとても重要な事ではあります。しかし、それによって日本の学生にくらべ応用力にかけている印象を受けます。

本校のサイエンスクラスの生徒は理科や数学に非常に興味をもっており、日本の理数科教育にも関心を示しておりよく質問を受けます。よって、数独をとおして生徒たちの柔軟な発想を育てる一助となるとともに、日本の文化に触れることができるのではと考えました。

7、 受け渡しセレモニー

本校では毎週月曜日に朝の集会が行われています。その際に、全校生徒と先生が一同に会すのでその場を利用して受け渡しのセレモニーをしました。2012年3月26日(月)に執り行いました。

数独の本の使い方を説明し、披露した際には、生徒たちは歓声をあげて喜びを表現してくれました。



8、今後の予定

現在、本校では学期末の試験が行われており、その後生徒はイースター休暇のため帰省します。新学期は5月からはじまる事になります。

サイエンスクラスの生徒を中心に空きコマを利用し、生徒たちに指導していきたいと考えています。

この数独が生徒たちの柔軟な発想力を鍛えるきっかけとなり、より日頃の学習にも精が出せるようになってほしいと思います。

9、最後に

JICA ボランティアの任期は2年です。その3/4が過ぎ、私の任期は残すところ6ヶ月となりました。このガーナにいてかけがえのない経験をたくさんさせていただいたのは、まぎれもない事実です。しかし、その任期中に東北大震災が発生し、その被害の実態も十分に把握する事が出来ずガーナにいる事をはがゆく感じていました。そんな中で日本からこのように支援をいただいた事に本当に感謝しています。

任期終了する9月まではガーナのために全力をつくし、帰国後は日本とガーナの双方のために力をつくしてゆきたいと考えています。

この度、このセントチャールズ高校に寄付頂いたことを重ねて感謝申し上げます

2012年4月2日

青年海外協力隊 ガーナ理数科教師 水元麻紗子